

事業所における自己評価結果

公表:令和5年3月1日

事業所名: 大府市発達支援センターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	0	・活動内容によっては狭いときもあるが、環境を工夫して使用している。
②	職員の配置数は適切である	13	0	・法令の基準よりも多く配置している。
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13	0	・活動に見通しが持てるよう、カードで1日のスケジュールを子どもに伝えている。 ・クラスの状況や子どもの特徴に合わせて担任間で検討している。
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	0	・毎日掃き掃除や消毒を行っている。 ・日々の掃除に加え、年に3回職員で大掃除をしいる。 ・どこをどのように使うか、子どもの向きなども考えてカリキュラムを立案し、環境を考えている。 ・本来はなっていると思うが、コロナ感染症予防のため、器具室とプレイルームの間のパーテーションを開けていることにより、活動に制限がかかっている。→必要に応じてパーテーションを閉める日をつくる。 ・毎日掃除を行い、長期休みには大掃除を行っている。
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	13	0	・毎年会議で取り上げている。
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	・職員全体で話して、改善につなげている。 ・保護者向けのアンケートを職員間で共有し、改善に向けて取り組んでいる。 ・職員全体で悩み、改善につなげている。 ・会議で一つひとつ丁寧に検討している。 ・おひさまからも保護者会からもアンケートを実施し、その都度業務改善を全体で共有して行っている。 ・改善できるところはできるだけ早く実行している。 ・職員会議にて全体で共有し、検討を行っている。
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	0	・会議でアンケートの結果内容を共有し、改善できるところは改善するようにしている。また、毎年3月頃に法人のホームページにも掲載している。
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	0	・数年に1回行っている。
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	・研修やワークは日々の療育の支援の参考になる内容で、テーマは工夫がなされている。

⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談で保護者の思いをしっかりと聞き取り、職員全体で支援計画を作成している。 ・担任間で専門職、上司と連携しながら子どものアセスメントをして支援計画を作成している。 ・アセスメントシートを利用しながら課題や成長した部分が見える化されている。 ・アセスメントシートを用いて行っている。 ・アセスメントシートを使用し、専門職の意見も取り入れて作成している。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束の記録を丁寧に行っている。 ・事業所独自のものを使って行っている。
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの親子を見て、取り巻く環境に合わせて書いている。
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担任間で共有し、振り返りの時間でより良い支援が行われているか確認をしている。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は常勤の作業療法士が不在だったためできなかったが、来年は一緒に考えられるとよい。 ・担任間で子どもにとって何が必要なのか話し合っていて決めている。 ・2週間のカリキュラムを立て、上司から助言等をもらいながら立てている。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスに合わせたものになっている。 ・子どもに合わせた展開をしている。 ・クラス毎に子どもの姿に合わせ、連続性も考えて行っている。 ・チーム会議などを行い、活動内容などを共有し固定化しないようにしている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・行っているが、集団活動の機会をもう少し多く設定することも視野に入れるとよい。 ・個別に抜き出して時間をかけて…というのではないが、日々の中で5分～10分でも個別支援計画の内容に合わせて、必要なときにやっている。 ・個別の目標があっても、活動ができるまでの環境設定は難しい。→工夫して時間を作っていく。

⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーで当日入る職員に、メモでクラスの様子や子どものことを伝える連携をしている。 ・週末に次週のプログラム内容を確認し、支援についても共有して取り組んでいる。 ・まず、常勤で打ち合わせをして、非常勤の職員が出勤したときにポイントを伝えている。 ・職員の出勤時間や子どもの登園時間によってはできないこともある。→ポイントだけ抑えられるように工夫する。 ・クラスによって異なる（バスの添乗、補助に入る職員の状況によって異なる）。 ・行事等で事前打ち合わせが難しい場合もあるが、基本的には毎回行うようにしている。
---	--	----	---	---

⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に毎日30分行っている。 ・懇談や専門職との振り返りで、パートの先生との振り返りが十分にできないと感じるときがある。→毎日行っているので、翌日に不足分を話せるようにする。 ・外部との打ち合わせや研修などがある場合は、振り返りを行うことが難しい場合もあるが、基本としては毎回行っている。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りや個別支援計画の会議などで活かしている。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期に限らず毎日評価し、姿が変わったときはその都度見直している。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・会議があるときは、基本は担任や相談員が参加し、必要に応じて上司も参加している。 ・同じ事業所内で各担当がすぐ近くにいることもあって、保護者を含めた担当者会議までは行われていない。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・主にセンター長・副センター長が行い、入園するタイミングで丁寧に行っている。 ・保健センター・子ども未来課・幼児教育保育課・子どもステーション等と連携を取っている。
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/	/
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/	/
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎ資料で必要な情報を網羅できるように記載している。 ・保育園交流を行い、保育者が同行をしたり中間打ち合わせ

	支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			<p>をしたりして情報を共有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎや保育所等訪問支援などを通して、情報共有や支援の確認などを行っている。 ・引継ぎの他に、中間に1回情報共有をしている。その他に、必要であれば直接来ていただいて子どもの姿を見てもらっている。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎ書類や発達検査の結果を用いて情報を共有している。 ・引継ぎや学校の体験の様子などを共有している。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の専門機関の研修を受け、学んだことを職員全体で研修報告にて共有している。 ・必要のある場合に連携をし、個別に研修を受けている。 ・相談支援専門員と連携して、他事業所の様子や情報などを共有している。 ・コロナ禍で対面は少ないが、ZOOM等で研修や情報交換をしている。 ・連携は積極的に図っている。

28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと交流する機会がある	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の移行のときや、就学前のタイミングで保育園との交流を設定している。 ・移行支援での交流はあるが、日々の生活の中では交流する機会が少ない子もいる。→新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら保育園の施設開放などの機会も増えるので、事業所で企画するだけでなく、地域の資源も活用できるようサポートしていく。 ・移行が決まっている子や就学時はあるが、園としての交流は行っていない。→同上 ・コロナ禍になる前は子どもの様子に合わせて、保育園の施設開放の情報を提供して保育園の体験に繋げていた。現在は、保育園移行や就学前の交流の設定のみをしている。 ・今は行事が少ないので、年長児交流位で機会は少ない。 ・機会は限られるが、交流する仕組みや連携は取りやすい状況がある。 ・移行児、就学時に限定されるが、交流する機会は設けている。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・センター長が部会長として参加している。 ・出席している。しかし、職員が限られているため、今後は色々な職員が参加できるとよい。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や送迎時、親子活動日に子どもの姿を共有している。 ・連絡帳でのやり取りで、家庭での様子を共有したり保護者の思いを聞いたりしている。

③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7	6	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の中でポイントを絞って丁寧に伝えている。 ・ペアトレという概念はないが、家族支援の一環として保護者と子どもについて共通理解をもち、懇談や親子活動日を通して支援内容を一緒に考えている。 ・何かの手法に絞らず、要素を取り入れながら親子活動日等で支援している。また、保護者自身が考え決定し、自信を持ってもらえるように支援している。 ・意識をして取り組んでいることは少ないかもしれない。それぞれの対応に関しては、常に担任間で共有している。 ・ペアトレは行っていないが、保護者向け講演会を年に何度か開催している。
③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な説明を保護者全体に行っている。全てを把握している職員が限られている可能性があるため、保護者からの質問があったときに答えられるかは分からない。→答えられないときは、毎回分かる職員に確認していく。
③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインは示していないが、個別支援計画についての説明は丁寧に行っている。 ・支援計画の説明はしているがガイドラインの説明はしていない。→今後、検討していく。
③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な助言ができないときは、「担任間でまた考えてお答えしますね。」と伝え、後日伝えるようにしている。 ・親子活動日に必要な助言や支援を行っている。 ・年3回の定期的なクラス懇談と個別懇談、センター長との語る会があり、その他に随時必要に応じて個別懇談を設けている。 ・年3回の定期懇談を設けている、また、保護者からの要望があった場合には、その都度懇談を行うようにしている。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の役員候補に声を掛ける際に、親子クラスはグループセッションの時間を使ってもらい、質疑応答をしながら説明が行われた。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・グループセッションで、相談や申し入れを話す機会を設けている。
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスだよりを月1回発行し、情報共有を行っている。 ・おひさまだよりを月1回発行しており、行事についてはその都度おたよりを配布している。
③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・気を付けている。
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく伝達できるようにツール等を使っている。

④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	8	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所主体の行事ではなく、福祉フェアは招待している。 ・コロナ禍で行っていない。 ・行事ではないが、コロナ禍になる前はもちや図書館を月1回開催し、地域の方に開放している。
④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる状況を想定した訓練を行っている。 ・救出訓練ができていない。→アンケート後の1月に行った。 ・どのマニュアルをどこまで保護者と共有するとよいか難しい。訓練は必要に応じて行っている。 ・福祉健康フェアに参加している。 ・感染症についてはマニュアルの周知のみで、訓練は行っていない。→今後、検討していく。
④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度定期的に行っている。 ・救出訓練は行っていない。→アンケート後の1月に行った。
④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や送迎時に確認をしている。
④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の面談を保護者としている。
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日終礼で報告と確認をしている。 ・事故ヒヤリの周知はしているが、事例集の作成はしていない。件数や大まかな内容は毎月行っている。 ・事例集はない。→事例集はあるので、今後は周知を徹底する。
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行っている。
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束をしなければいけない理由を保護者と共有して、支援計画に記載している。 ・職員会議で必要か不必要かは適切に吟味している。 ・職員会議で身体拘束が本当に必要なのか検討した上で、保護者に説明している。 ・今年度より記載し、今後ブラッシュアップしていく予定。

○この「事業所における自己評価結果」は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価していただくものです。「はい」か「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」「課題や改善すべき点」等について記入して下さい。